

課題番号 : 20 委 - 8

研究課題名 : 「地域中心の精神保健医療福祉」を推進するための精神科救急及び急性期医療のあり方に関する研究

主任研究者 : 伊藤順一郎

分担研究者 : 伊藤弘人、黒木俊秀、佐竹直子、瀬戸屋雄太郎、平田豊明、安西信雄、吉田光爾、八田耕太郎

## 1. 研究目的

精神障害者の「回転ドア」現象や長期入院を抑止するために、①適切かつ効果的な急性期入院医療の実践、②退院後に必要と予想されるサービスレベルについての適切なアセスメント、③入院当初からの迅速なケアマネジメントにより地域ケアにつなげるアクション、④急性期病棟退院後の、再入院予防も視野に入れた適切な地域生活支援とリハビリテーションが不可欠であるとの認識のもとに、全体として「急性期医療と地域リハビリテーションが直結した精神科医療」に寄与するツールの提示とその効果についての実証を示すことを目的に研究活動を実施した。

大きく分けて、以下の課題を設定した。

【Ⅰ. 精神科急性期医療の最適化に関する研究】

【Ⅱ. 地域精神科医療の機能分化と連携を支援するデータベース構築に関する研究】

【Ⅲ. 急性期病棟における急性期ケアマネジメントのモデル作りに関する研究】

【Ⅳ. 危機予防・急性期対応の訪問型地域ケアモデルの開発に関する研究】

## 2. 研究方法

かなり広範な領域を包含する研究であり、方法論も多岐にわたるのでここでは詳細には述べない。ただし、いずれの研究活動も、主任研究者が所属する国立精神・神経医療研究センターないし、分担研究者が所属する施設の倫理委員会の審査を得ていることは報告しておく。

## 3. 研究結果および考察

【Ⅰ. 精神科急性期医療の最適化に関する研究】

①行動制限最適化データベースソフト eCODO 3 の整備と施設導入 (2ヶ所)。隔離・拘束のモニタリング (伊藤弘人、野田寿恵)

②隔離施行時の看護ケアについてフィンランドとの比較研究の達成 (伊藤弘人、野田寿恵)

③行動制限最適化研修の実施、効果測定の実施。研修により隔離・身体拘束施行量が減少 (伊藤弘人、仲野栄)

④非定型抗精神病薬の 2 剤併用の有用性についての検討 (八田耕太郎)

【Ⅱ. 地域精神科医療の機能分化と連携を支援するデータベース構築に関する研究】

①多施設における LOCUS の縦断的調査ならびに妥当性の検討 (3 病院) (黒木俊秀、猪俣晋作)

②精神科地域連携パスの開発と地域の基幹病院との連携・機能分化に向けた取り組み。マニュアルの作成 (黒木俊秀、猪俣晋作)

【Ⅲ. 急性期病棟における急性期ケアマネジメントのモデル作りに関する研究】

①精神科急性期ケアマネジメントプログラムの有効性について、救急病棟 12 病棟、急性期治療病棟 5 病棟で実施。今回は十分病棟業務に浸透せず (瀬戸屋雄太郎、伊藤順一郎)

②急性期ケアマネジメントモデル改善版のツールキットの作成 (佐竹直子、伊藤順一郎)

【Ⅳ. 危機予防・急性期対応の訪問型地域ケアモデルの開発に関する研究】

①急性期ケアマネジメントとアウトリーチサー

ビスが連結した地域ケアモデルの開発、および基盤となる実態調査（安西信雄、坂田増弘）

②未受診・受診中断等による急性期／危機事例の支援について、ACT チームが果たしている役割について、依頼経路とエントリー事例のフォロー調査（吉田光爾、伊藤順一郎）

#### 4. 結論

今後、1) 多職種アウトリーチチームが急性期治療早期に果たす役割について、モデル作成とその効果についての研究の推進、2) 隔離拘束に関するモニタリング法の普及と、隔離拘束の回数や時間を縮減するための方法論についての整理検討、3) 早期退院を促進するためのケアマネジメント体制の構築と、その効果についての研究、などのさらなる深化が必要。

#### 5. 研究発表

国内発表論文：10本 国外発表論文：7本

- ・ Ito H : Quality and performance improvement for mental healthcare in Japan. *Curr Opin Psychiatry*. 22: 619-622. 2009.
- ・ Hatta K, et al : A prospective naturalistic multicenter study of intravenous medications in behavioral emergencies: haloperidol versus flunitrazepam. *Psychiatry Res.* [Epub ahead of print. 2010.
- ・ Nakanishi, M, Sawamura, K, Sato, S, Setoya, Y, Anzai, N : Development of a clinical pathway for long-term inpatients with schizophrenia. *Psychiatry and Clinical Neurosciences*. 64: 99-103,2010.
- ・ Junichiro Ito : Initiative to Build a Community-Based Mental Health System Including Assertive Community Treatment for People With Severe Mental Illness in Japan. *American Journal of Psychiatric Rehabilitation*. 12:247-260, 2009.

・ 野田寿恵, 杉山直也, 川畑俊貴, 平田豊明, 伊藤弘人: 精神科救急入院料病棟を有する施設における隔離・身体拘束施行量の実態調査—行動制限に関する一覧性台帳からの指標を用いて. *精神医学*, 51 : 989-997, 2009.

#### 6. 知的所有権の出願・所得状況

特になし。

#### 7. 自己評価

1) 達成度について：

当初の研究計画の内容は70%以上達成。

2) 学術的、国際的、社会的意義について：

我が国の精神科医療の水準を引き上げるための具体的な提案として意義があると考えられる。

3) 行政的意義について：

隔離拘束のモニタリング、急性期病棟のケアマネジメント、精神科地域連携パスの作成など、精神科急性期病棟の質の向上に有用なツールを提供した。

4) その他特記すべき事項について

特になし。